2Ip-12

ゲーテボルグ在留の日本人からみたスウェーデンの住まいと住みよさ
その２：住宅の間取りと設備

大阪コミュニティワーカー専門学校　○青野香織　兵庫教育大　菊澤康子

〈目的〉　スウェーデンの住まいとその住みよさについて、スウェーデン南部の都市に在留する日本人の目から明らかにすることを目的とした。「その１：住宅と居住環境　1992年度家政学会関西支部報告」の継続。

〈方法〉　1992年５月から６月。スウェーデン・ゲーテボルグに居住する日本人の世帯16例を対象に、住宅とその住み方、住み心地について、訪問し住宅および住み方の観察と共に、面接聞き取りによるケーススタディを行った。

〈結果〉　対象住宅の住棟は中庭を持つ囲み配置が多く、住戸の広さは公共住宅でも学生用の１室17㎡から、家族向けの３寝室 145㎡まで幅がある。住戸面積が広くなるとＬ面積が増え、DK以外のＤ、浴室以外の便所が設けられている。公空間には必ずＬ・Ｄ・Ｋが設けられているが、Ｌ＋DK型で分離型と接続型がある。窓のない部屋はなく、住戸は２方向の外壁、窓を持つと同時にバルコニーを持つ。共同施設には洗濯室とゴミ置き場がある。

設備としては賃貸、分譲にかかわらず、①セキュリティシステムの完備。２重ドア、２重ロック。②セントラルヒーティング完備。２重または３重窓。③台所には冷蔵庫、冷凍庫、電気コンロ等の備えつけ。④食品、衣類の収納空間の取り付け。⑤家具付きの賃貸住宅もある。　以上の住宅での住み心地を日本人在留者は、日本での住宅と比べて高く評価している。その理由としては、ＬやDKのゆったりとした広さ、収納空間の整備、充実した台所設備と使いよさ、保温性の良さ、窓からの景観の良さ、建物の維持管理の良さ、等の点があげられた。なお、台所や浴室の設備に慣れるには時間を要している。